

## 第4回東北教育オーディオロジー研究協議会研修会

### 開会式 会長あいさつ

本日は、多くの皆様にお集まりいただきありがとうございます。心より歓迎申し上げます。また、本会設立当初からご支援をいただいております本研究協議会特別顧問の大沼直紀先生には、今回も、ご多用な中、本研修会においていただきました。本当にありがとうございます。

さて、本研究協議会は、これまで各学校、各地域で、それぞれ培ってきた聴覚障がい児教育・療育における、聴覚補償や聴覚管理、聴覚学習及び教育・療育上の支援に関する専門的な知識や技能を、東北地区で継承・共有、そして発展させることを目的として、平成25年8月に設立されました。

今回が第4回目の研修会となっています。

研修会の講師には、東北地区で聴覚障がい教育・療育に携わっている会員が担当しております。

さらに、今年は、京都府立聾学校で長年教鞭を執られ、現在筑波技術大学にお勤めの脇中起余子先生に、『「九歳の壁」と認知特性を考慮に入れた指導』のテーマでご講演、補聴器各社による「最新の補聴器事情」、そして、各年代の聾学校の先生方によるパネルディスカッションなどを企画しました。

すべての研修が、皆様に、ご満足いただけるものと思っています。

宮城教育大学、東北福祉大学の学生の皆さんにも、多数ご参加いただきありがとうございます。学生の皆さんには、研修内容はもちろんですが、この2日間を活用して、聴覚障がい児教育・療育の先輩方と交流し、有意義な時間を過ごしていただけたらと思います。

最後に、来年度の研修会は、8月10日（木）、11日（金：山の日）、仙台市で開く予定です。研修内容は、会員及び今回参加の皆様のご意見を参考に企画して参ります。是非、来年度の研修会にもご参加いただきたく、また、併せて、本協議会への入会もお願いしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

平成28年8月10日  
東北教育オーディオロジー研究協議会  
会長 高屋隆男